

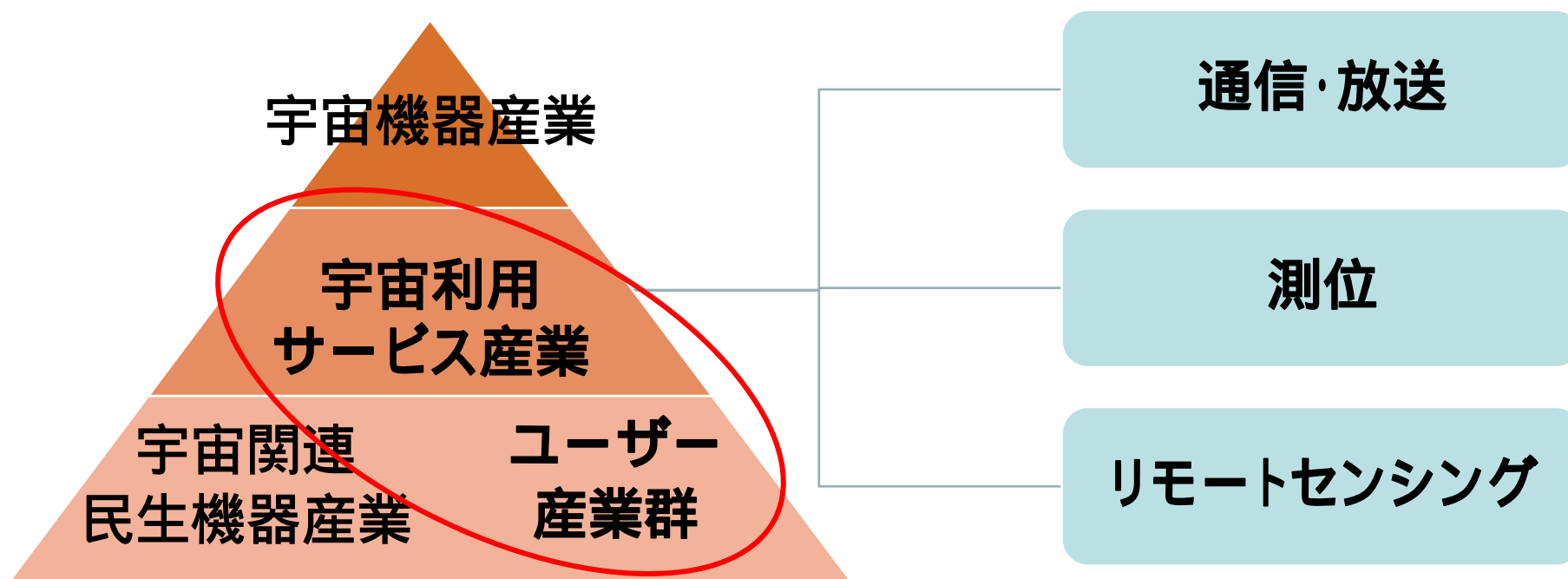
宇宙利用に係る産業界の取組

2016年12月1日

一般社団法人 日本経済団体連合会

1. 宇宙産業の全体像

宇宙利用サービス産業は、
①通信・放送、②測位、③リモートセンシング



1. 宇宙産業の全体像

宇宙利用の拡大に向けた課題

- 宇宙基本計画に基づき、宇宙機器産業と利用サービス産業・ユーザ産業の連携が進みつつある。宇宙利用の拡大には更なる連携が必要。
- 各分野における利用促進の加速が必要
 - 【通信・放送】
 - 官公庁および民間での利用が最も進んでいる分野
 - 【測位】
 - 米国GPSの開放によりカーナビ等の民間利用が普及
 - 準天頂衛星によるセンチメートル級の高精度測位サービスを活用した新産業の創出に期待
 - 【リモートセンシング】
 - 現状は海外衛星の利用が中心
 - 国内の利用を先導する観測衛星を国のインフラとして整備・維持することが必要

2 . 事例（通信・放送）

既に各方面での利用が普及



衛星通信固定局



ヘリコプター衛星通信



衛星通信移動局



船舶用衛星通信アンテナ

2 . 事例（通信・放送）

次世代技術の実用化の取組み

- 衛星利用の普及に加え、衛星インフラの海外展開(輸出)も徐々に増加
- 技術試験衛星プログラムにおける技術開発・実証の成果を民間企業が実用化するスキームが官民連携により構築されつつある。
- 外需獲得に向けた市場ニーズを見据えた継続的な研究開発が鍵
 - ・ オール電化衛星（衛星軽量化→打上コスト削減）
 - ・ 通信サービスの高速大容量化/フレキシブル化
 - ・ 衛星バスの大電力化



3 . 事例 (測位)

高精度測位が切り拓く新たな社会

